
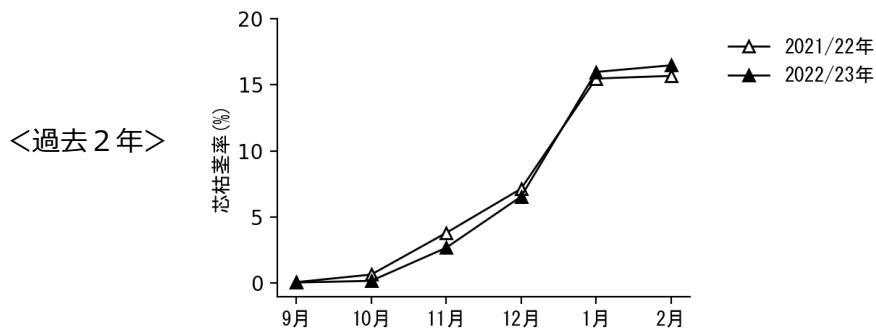
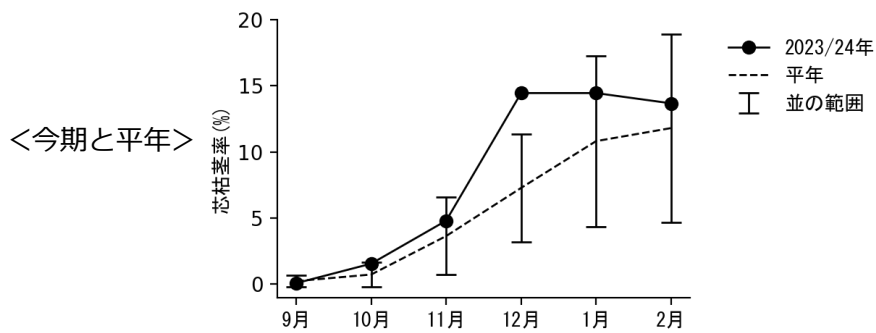


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
		3 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果


芯枯茎率の推移 (夏植え)



・発生ほ場率100% (平年 : 94.5%)

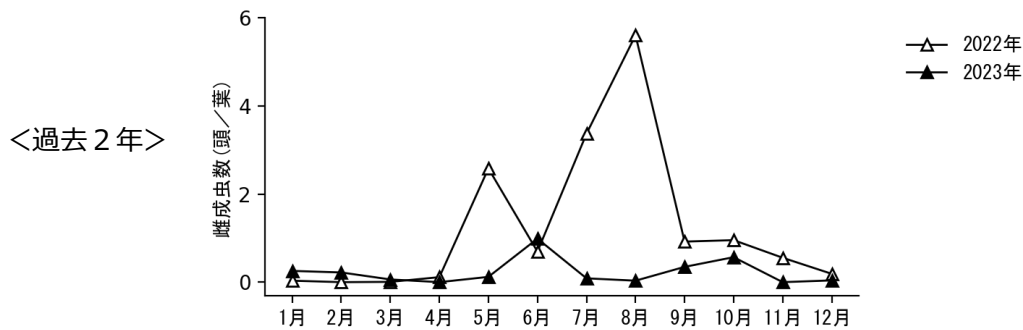
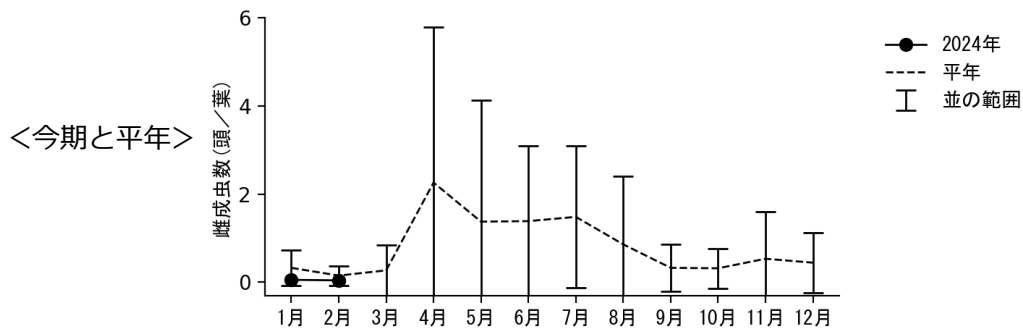
防除のポイント

- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：15.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

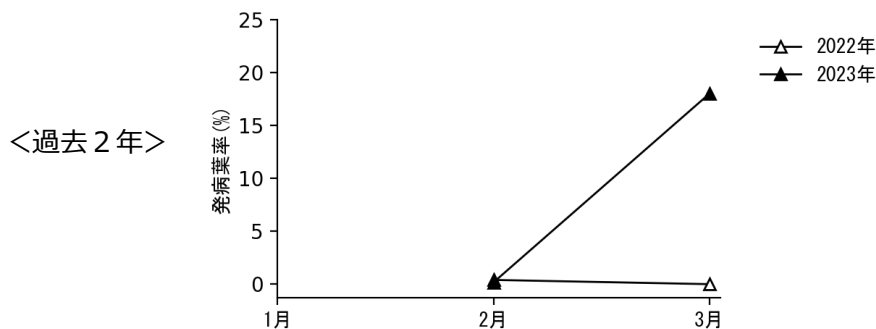
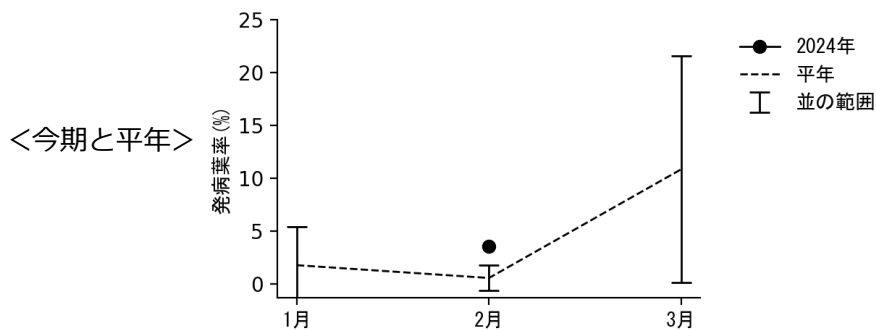


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① 斑点・褐斑細菌病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 10.4%)

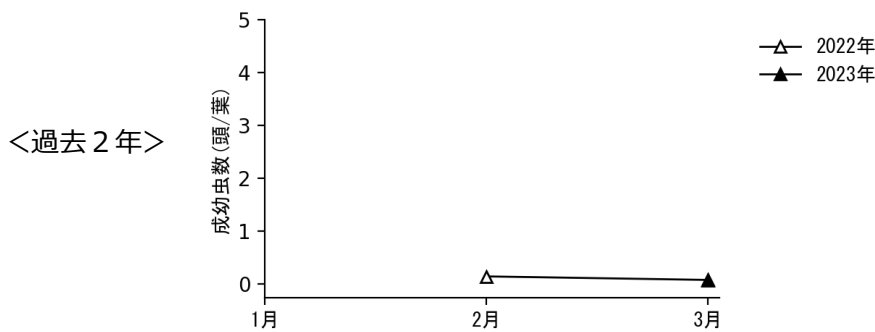
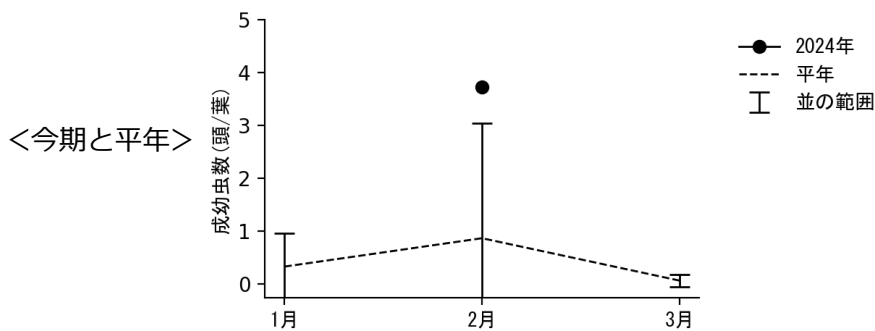
防除のポイント

- ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率100% (平年 : 40.0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

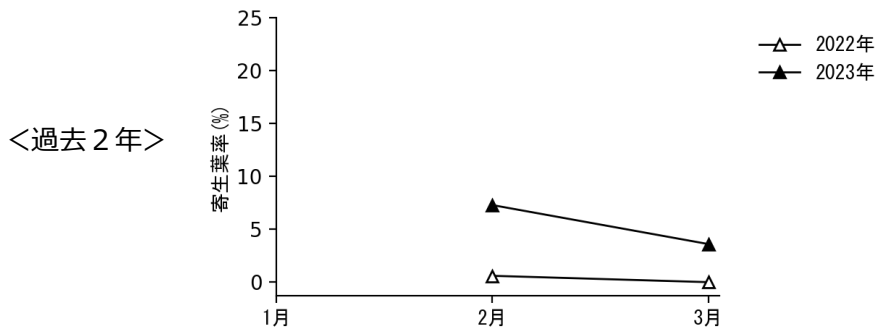
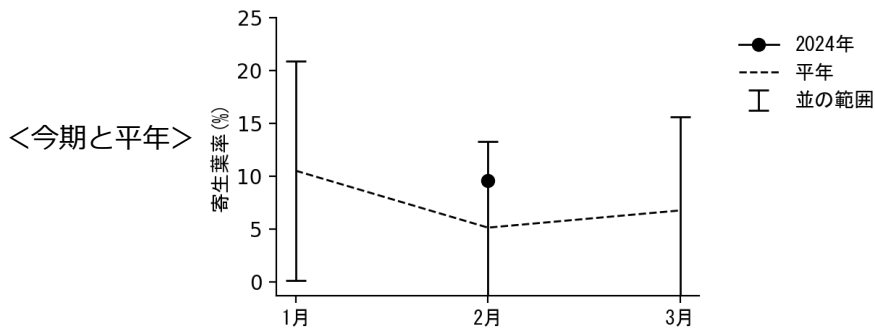


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 30.2%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となりうるほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

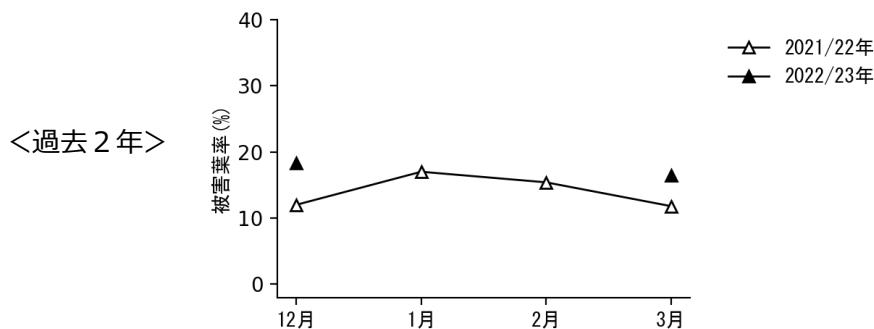
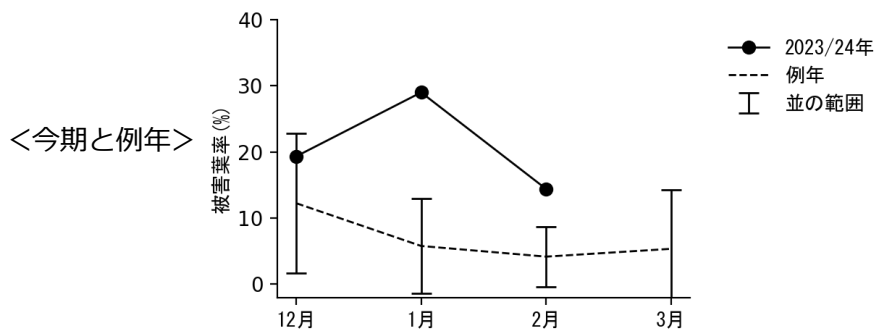
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① ハモグリバエ類			
調査結果	2 月の発生量 (例年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (例年比)	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)		

調査結果

被害葉率の推移




・発生施設率20.0% (例年：55.0%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

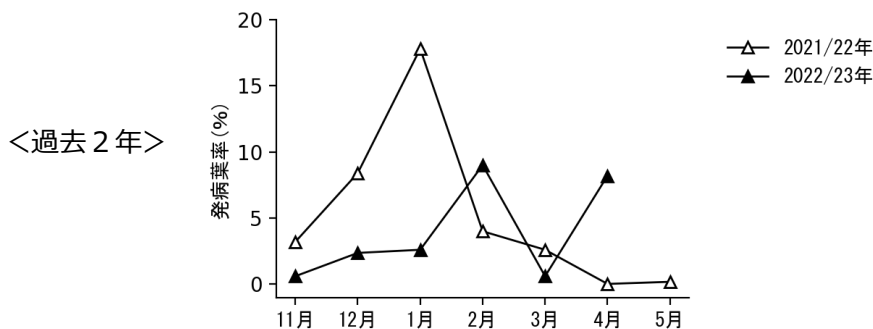
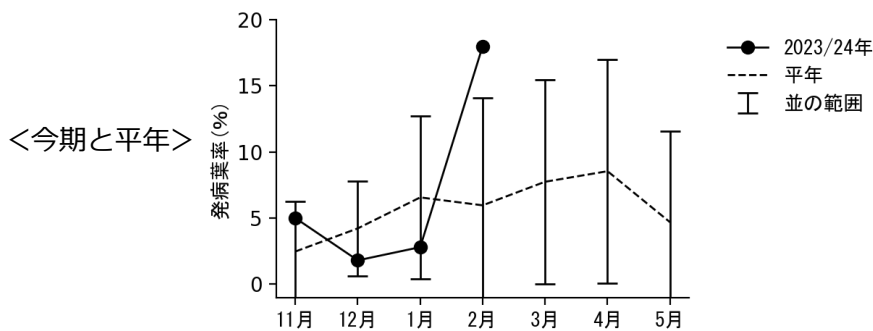


被害葉

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予 報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 38.5%)

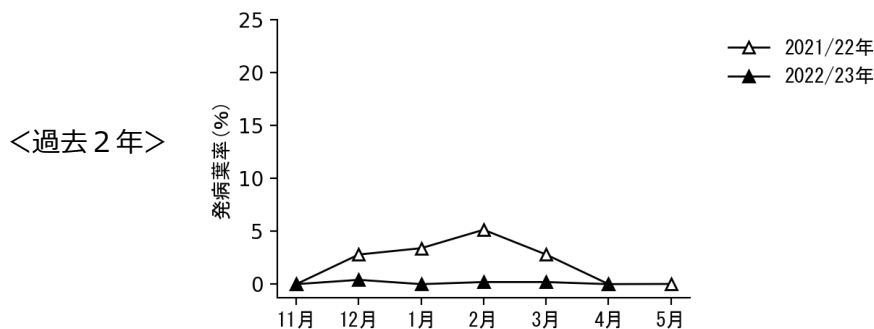
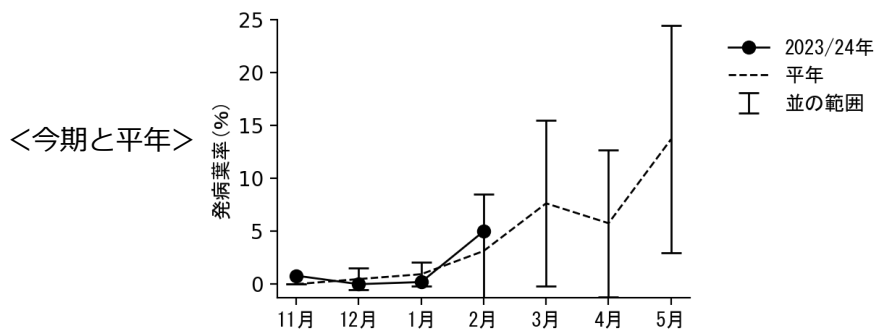
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病葉率の推移



・ 発生施設率60.0% (平年 : 32.7%)

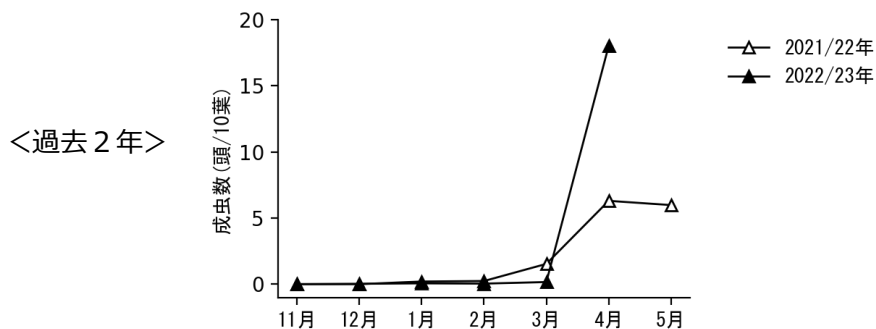
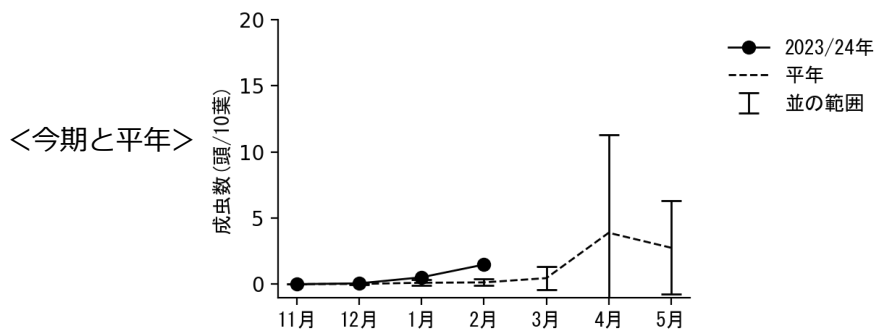
防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率40.0% (平年：13.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

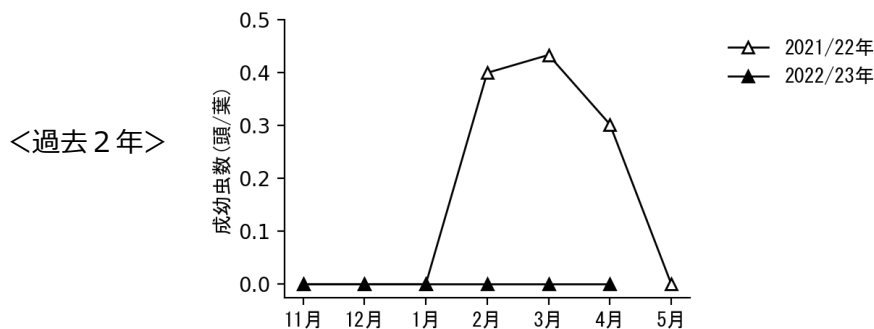
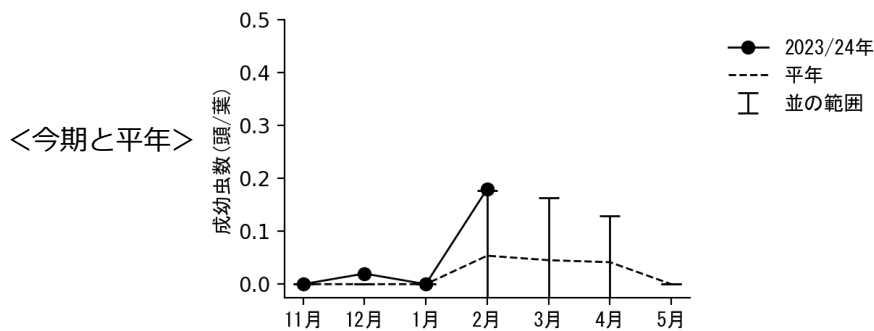


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	④ アブラムシ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成幼虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 5.8%)

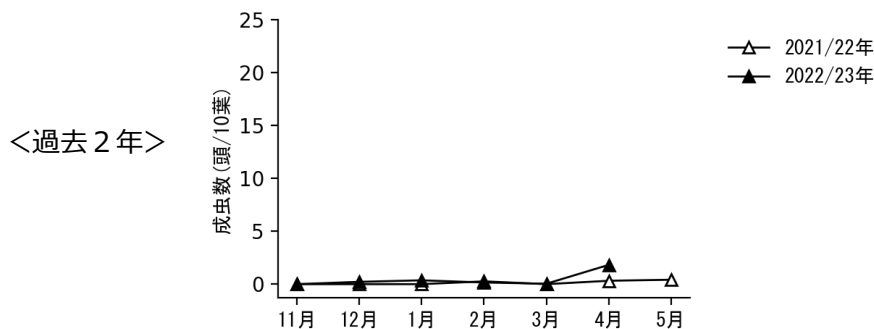
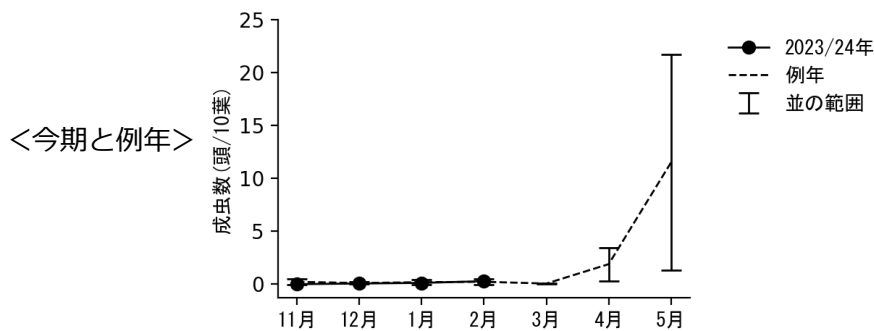
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (例年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0% (例年：20.0%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。